

研究代表者 所属・職：看護学部・教授

氏 名：長江 美代子

研究課題名：子どもの性暴力被害後の悪循環を断ち切るトラウマインフォームド・システムの構築

研究の概要

本研究の目的は、子ども・思春期の性暴力被害-PTSD-社会生活不適応-再被害の悪循環を断ち切ることである。幼少期の性被害を誰にも言えず、自覚がないまま PTSD を抱える日常の生きづらさは、トラウマおよび PTSD の知識なしには理解どころか気付く事もできない。この、見逃されている子どもの性暴力について、被害後の人生にまで及ぶ悪循環に着目したところに本研究の独自性がある。トラウマインフォームド・システムによって子どもの性暴力被害に気づき、二次被害を与えず、子ども多職種多機関連携チーム (MDT : Multi-disciplinary Team) によって確実に PTSD 予防・治療・回復につなげることで悪循環を断ち切る。関連機関のデータ連携実現により MDT 活動を促進する情報共有・意思決定システム構築が可能になる。そして、性暴力を取り巻く包括的なデータを、IT を活用して縦断的に収集・蓄積していく。将来的には、分析に AI を活用することで性暴力被害に関する理解が深まり、性暴力を未然に防ぐ環境づくりの手掛かりとなる知見を期待できる。

本研究では、性暴力被害者支援看護師 (SANE) の活用を特徴とした、病院拠点型性暴力被害者ワンストップ支援センター「なごみ」に、思春期を含む子どもの性暴力被害に対して支援の方向性を決定する子ども MDT を設置する。地域内児童相談所をはじめとする、子ども関連の司法・行政・医療の連携機関にトラウマインフォームド・ケアを導入し、子ども MDT が部門を超えて協働ができる体制をつくることで、子どもの性暴力被害-PTSD-社会生活不適応-再被害の悪循環を断ち切ることを目指す。具体的には①研修と人材開発によりト

ラウマインフォームド・アプローチを実践の流れに組み込む。②子ども MDT を支援する情報共有・意思決定支援システムを導入する。③なごみ活動データの標準化・蓄積・分析基盤を構築する。④なごみモデルに関する多様な情報を縦断的に蓄積・分析し、子どもの性暴力をとりまく包括的な知見を得る。

達成状況・成果内容

1. トラウマに関する研修と対応のための人材開発
 - 1) 関連機関スタッフのエンパワメントのために、トラウマの知識と技術に関する研修を実施する。
養成プログラム (SANE、支援員) ; 性と性教育に関する研修 ; 子どもとの絆を深めるプログラム (CARE) ; 愛着障害、発達障害に関する研修。
 - ・愛知県との協働により第 7 回性暴力被害者支援看護師 SANE 養成プログラム (全 10 日間、65 時間) を、令和 2 年 10 月～令和 3 年 1 月の期間で実施した。愛知県内の救命救急センター 24 カ所のうち 12 施設 21 名が参加した。外部から 7 名を加えた計 28 名が受講した。
 - ・日本福祉大学看護実践研究センターとの協働により、子どもとの絆を深めるプログラム (CARE) を実施した。愛知県および岐阜県の子どもの関わる施設から 30 名が参加した。
 - ・ISVA: (Independent Sexual Violence Adviser) という、UK の政府認定のプログラムで資格にこだわらない実践的な支援者研修の導入準備を開始した : 当事者グループと愛知、東京、福岡の性暴力・性暴力被害者支援の運営に当たるスタッフ 5 名で計画中。

- 2) 子どもとその家族に治療・回復につながる心理社会的療法実施できる治療者の育成
 - ・親子相互交流療法（PCIT）スーパービジョンを経て3名のセラピストと3名の施設内トレーナーが認定された。

2. 子ども MDT の編成と WEB 会議システムの導入と実践

名古屋中央児童相談所との連携について WEB 会議を定期的（1回/月）に実施し、既存ケースを用いてデータの流れを検討中。MDT の輪を順次広げていく。

3. 組織間のデータ項目の標準化とデータベースの構造を設計する。

紙ベースではあるが、共有項目を抽出した上で情報共有シートを作成し活用を開始した。

4. なごみ活動データの標準化と蓄積

- ・なごみでの入力項目を決定し、PC への入力の試行を開始した。

SANE 養成プログラムを受講した看護師が所属する今後のワンストップ支援センター協力病院とも項目を併せられるように準備している。

- ・利用者 PTSD 関連症状および心理教育に使用する尺度アンケートを作成した。研究倫理申請予定。

5. COVID-19 拡大により、オンラインによるセラピー実施のニーズが高まってきたため、計画を変更し、治療効果をモニターする（PTSD 症状の見えにくさを可視化する）ためのウェアラブルデバイスの活用を検討した。装着時の安全性、使いやすさ、呼吸などのリラクゼーション、心拍変動モニターなど試行中。